

令和5年度国立大学法人お茶の水女子大学

内部質保証における自己点検・評価結果を踏まえた改善計画

分野	計画の 実施主体	改善事項		改善計画		学長戦略 機構会議 確認
		年月	内容	年月	内容	
入学者 選抜	入試課	R6.7	<p>プレゼミナール アンケート結果、図書館入試アンケート結果、新入生アンケート結果については、関係者間での共有や分析結果の検証（過年度との比較や入試種別間での比較等）が実施されたことが資料から確認できなかったことから、学生の受入状況を検証する組織及び、方法が確認できる資料や、学生の受入状況を検証し、入学者選抜の改善を反映させたことを示す具体的事例を提示することができていない。</p> <p>（自己点検評価結果及び意見聴取結果における改善が必要と認められる事項について）</p>	R6.12	<p>令和6年度プレゼミナール以降に実施されるアンケートの結果を学部入試実施部会や新フンボルト入試専門部会にて共有し、入学者選抜方法改善に向けた議論を行うこととする。</p> <p>（令和5年度国立大学法人お茶の水女子大学入学者選抜に関する自己点検・評価の改善策及び実施計画について）</p>	R7.1
入学者 選抜	入試課	R6.7	<p>大学院博士後期課程の入学者数について、過去5年間での入学定員に対する実入学者の割合の平均が64%※であり、入学定員を大幅に下回る状況（70%未満）にある。</p> <p>※ 令和6年度における秋季入学者は評価実施時点で不明のため、これを除いた数値。</p> <p>（自己点検評価結果及び意見聴取結果における改善が必要と認められる事項について）</p>	R6.12	<p>改善方策検討のため、大学院博士後期課程への進学について、本学在學生にアンケート調査を行ったところ、学位取得後の進路と学費等の経済面が障害となっていることが明らかとなった。</p> <p>については、博士学位取得者は大学、研究機関等への就職を目指す者が多かったが、民間企業も視野に入れるよう、入学時から指導していくこと、科学技術振興機構の次世代研究者挑戦的研究プログラムへ応募し、博士後期課程学生への経済支</p>	R7.1

分野	計画の 実施主体	改善事項		改善計画		学長戦略 機構会議 確認
		年月	内容	年月	内容	
					<p>援を行っていくこと、博士前期課程進学者を増やしていくこと、を行っていくこととした。あわせて、社会から要請される人材を育成していくため、専攻間の定員移動も進めていくこととした。</p> <p>(令和5年度国立大学法人お茶の水女子大学入学選抜に関する自己点検・評価の改善策及び実施計画について)</p>	
教育	学務課	R6.7	<p>「国立大学法人お茶の水女子大学における内部質保証に関する基本方針」第6条第1項において定められる必要な調査は、「卒業（修了）生アンケート」となっており、定量的な調査の実施及びその活用を求めているが、該当する調査資料として提出があった「卒業（修了）生調査（質的調査）報告」は、調査対象者を絞った質的調査であり、適切な調査を実施できていない。</p> <p>(自己点検評価結果及び意見聴取結果における改善が必要と認められる事項について)</p>	R6.12	<p>令和5年度に学生・キャリア支援センター長名で実施した「卒業（修了）生調査（質的調査）報告」は、定量的な調査ではなく、指摘のとおり適切な調査ではなかったと認識する。</p> <p>本学の「教育」に関する意見を聴取する機会であるのに、実施組織が学生・キャリア支援センターであることが、指摘のような事態を招いたと考え、調査の実施組織を「学生・キャリア支援センター」から「学務課、学生・キャリア支援課及び教学IR・教育開発・学修支援センター」に変更することとする。</p> <p>(令和5年度「教育」に関する内部質保証における改善策及び実施計画について)</p>	R7.1